

支援事例②

自家製梅干しの生産体制増強を通じた、
コロナ禍における売り上げ回復計画

令和5年3月16日

三重県よろず支援拠点

コーディネーター

石倉 豊生

令和4年度三重県よろず支援拠点 地域支援機関連携フォーラム

企業名

松本農園

企業プロフィール

【業種】 製造業

【代表者】 松本 清 氏

【創業年】 2010年 3月

【事業拠点】 南牟婁郡御浜町

【従業員数】 4人

【URL】 <https://www.matsumotofarm.com/>

【事業概要】 梅干しの製造販売



令和4年度三重県よろず支援拠点 地域支援機関連携フォーラム

取り扱い商品

若年層を意識したパッケージデザイン、
独自商品の企画開発



はちみつうめぼし



スタンドパック



個包装



令和4年度三重県よろず支援拠点 地域支援機関連携フォーラム

販売手法

取扱店での販売に加え、全国各地のイベントや
展示会への出店を通じて販売ルートを地道に開拓



相談のきっかけ・ヒアリングによる課題の整理

●新型コロナウイルス感染症の影響

- ・観光需要が大幅に縮小した結果、物産施設での売り上げが大幅に減少。
- ・各地のイベントや催事が軒並み中止となり、対面販売の売り上げが大幅に減少。

上記課題への対策として、コロナ禍に対応した新商品開発等の体制強化と、かねてより計画されていた製造環境の増強計画を実施するにあたり、まつさかサテライト宛に相談があった。

●市場の需要に対応した商品開発と生産体制の増強計画

対応策として、コロナ禍に適応した日持ちする商品への改善計画、感染予防に配慮した製造ラインの新設を通じて、売り上げ回復とアフターコロナに向けた事業体制の構築に取り組むこととした。

課題解決の提案・アドバイス

● 新たな取り組みに向けた支援

・コロナ環境下の市場に対応可能な商品の開発

計画当初は、新商品開発に的を絞った設備導入を計画されていたが、特定の商品に頼るリスクも考慮し、現行商品ラインナップ全般に効果が及ぶ計画への修正を提案。

・加工場の新設を通じた生産体制の増強計画

感染リスク低減の手段として、導入設備の素材の選定についても、より感染防止効果の高い仕様とすることを提案。

→設備の導入にあたっては、「三重県新型コロナ克服生産性向上・業態転換支援補助金」を活用。

・対面販売以外の窓口強化

自社WEBページを通じた取り組みとして、SNSを有効活用する事により、対面販売が困難な状況においても、顧客に向けたアプローチが可能な環境整備についてアドバイスを実施。

事業所の所在地が、拠点から遠方となる為、遠隔での相談対応に加え、現地の事業所を直轄する「みえ熊野古道商工会・御浜支所」様と連携してサポートを実施。

取組内容と成果

●新工場稼働による生産体制の増強を通じて売り上げ増加が実現

- ・新規製造設備導入により、従来製品よりも2倍以上の長期保存が可能な商品ラインナップへの転換が可能な生産体制の構築が実現。
- ・令和3年12月より従来比1.5倍の生産能力を持つ新工場の稼働が開始。感染症対策に向けて生産設備と衛生基準を強化した事により、安定した品質で大量の商品が提供可能な生産体制の確立が実現した。

コロナ禍における自粛が緩和されたことにより、需要が回復傾向にある各地の販売拠点に向けて、商品の安定供給が可能となり、出荷量が順調に増加。



令和4年度三重県よろず支援拠点 地域支援機関連携フォーラム

成果紹介

●回復傾向の観光需要に対応

各地イベントの出店再開、「VISON」での販売開始



●SNSを通じた情報発信力強化

顧客との関係性強化、メディア出演による知名度の向上



事業者の声

事業所の所在地が遠方の為、主に電話とメールを通じての相談対応が多いのですが、今回のコロナ禍での対応策、新工場の設立など、事業運営の各節目ごとに事業計画の作成のサポートを通じて、着実に成果に繋げることが出来ました。今後も栽培からお客様の手元に梅干しが届くまでを自らで行い、堅実な業務運営を進めてまいります。

コーディネーターコメント

よろず支援拠点 石倉 豊生

当初より取り組んでこられた全国各地のお客様との信頼関係の構築を重視した地道な営業スタイルが実を結び、成果が出て来ました。地元でも注目される企業様として、今後も地域の食産業のけん引役を期待します。